

## [4] ワンポイント解説

第1問	問1	例年出題されている地形断面図の問題。新期造山帯が大陸のどこに位置しているかが判別のポイント。Cの北米大陸とDの南米大陸の判別は、前者は海岸山脈とロッキー山脈の二層になっている④であると判別する。
	問2	世界の土壌についての問題。①テラローシャはエのブラジル高原、②のレグールはウのデカン高原、③のテラロッサはアの地中海沿岸地域、④のチェルノーゼムはイの黒海北岸の土壌である。
	問3	今年は雨温図ではなくハイサーグラフが出題された。サンフランシスコは夏季に降水量が少ない地中海性気候であることがわかれば②であると容易に判断できる。
	問4	まず、7～10月に流量が集中しているキはサイクロンや南西モンスーンの影響を受けるKであると判断する。残るカとクについては、Lのミシシッピ川に春の融雪水があることで判別が可能である。
	問5	シのセイロン島は、南西モンスーンの影響で風上の南部が湿潤な熱帯雨林気候、山を隔てた北部が南部と比較してやや乾燥するサバナ気候となっているため②であると判断。
	問6	今年の問題の中で最も困難な問題の1つ。グレートバリアリーフの日本語名称が大堡礁であることから、Pはチの堡礁であるとわかる。次に、モルディブやマイクロネシアの島々が地球温暖化による水没の危険性にさらされている環礁であることを考えれば正答できる。
第2問	問1	センターの典型的な問題。まずは先進国に集中しているウを輸入量の地図だと判断する。次に、産出量が多いが、自国での消費量が多く主要な輸出国になっていない中国やアメリカに印がつけられていないアの地図が輸出量の地図であると判断する。
	問2	①アメリカと②インドは火力発電が中心であり、④ブラジルは水力発電が中心である。したがって、③のドイツに関する文章が正しい。
	問3	題意の把握が難しく、読み間違いによる混乱も多かったと思われる。韓国が現在、日本を上回る造船竣工量を誇ることからAがイギリス、Bが韓国だとわかる。次に、円高が進んだ80年代以降、韓国の造船量が増えてきたことを考えサが2007年のものであると判断する。
	問4	④は南欧諸国が並ぶのでワインであるとわかる。③はサトウキビの主要生産国であるブラジル、インドから砂糖であると判断。①は北欧のフィンランド、スウェーデンが入っているのでパルプであると判断。消去法、または、②には石灰石を産出する日本が含まれているため、セメントであると判断できる。
	問5	オーストラリアは市場規模が小さく、鉄鉱石と石炭の産出地が離れているため、日本の鉄鋼関連工場の進出は見られない。
	問6	教科書的学習で解けるオーソドックスな問題。タはボストン、チはヒューストン、ツはデトロイトなど、具体的な都市名がイメージできれば容易に解答できる。
第3問	問1	Dのみが通気性を必要とする高温多雨な気候であることから、③であると判断する。
	問2	宗教人口とその分布に関する問題。まず、中東・北アフリカ地域に信者が集中するアがイスラム教と判断。次に、中南米での信者数が多いイがカトリックであると判断する。
	問3	やや難しい問題。企業本社数が多い①はニューヨーク、逆に0である④はプラハであると判断する。ソウルとシャンハイについては、韓国の人口が約5000万人であるのに対し、ソウルの人口が約1000万人、中国の人口が約13億人であるのに対し、シャンハイの人口が約1300万人であることから判別が可能である。
	問4	④リオデジャネイロにはファベラと呼ばれる不良住宅地区(スラム)が形成されている。①シドニーで白人に次いで居住割合が高いのはアジア系である。②パリは都心の景観を保護するため、厳しい建築基準が設けられている。③メキシコシティは大気汚染がひどい山地斜面にスラムが形成されている。
	問5	自動車工業都市である豊田市は第2次産業就業者の割合が高いと考え、Gであると判断。次に、西宮市が京阪神地域のベッドタウンであることから人口増加率の高いFであると判断する。
	問6	過去にも出題されている形式の問題。鉄道の路線網を知らなくても東京都区部からの距離と位置関係から判別が可能となっている。

第4問	問1	標高の区分が細かいため、難しい問題となっている。そのため、地図帳を普段からよく見ている人とそうでない人で難易度が分かれる問題といえる。 エチオピア高原とアトラス山脈の位置から1600m以上をイと判断し、南部アフリカの高原地域から1100~1400mをウであると判断する。
	問2	地理Aの問題によく見られる食生活文化に関する問題。西アフリカの地域でラッカセイの生産がみられることを知っていればすぐに解答できるが、知らない場合でも、①は小麦粉、オリーブなどから地中海沿岸のAと判断し、③は米が主食であることから、マレー系文化の見られるマダガスカルのDと判断。④はヤムイモ、バナナなどから熱帯地域のCであると判断し、消去法で解答することもできる。
	問3	まず、北アフリカのイスラム地域に見られないキはブタであるとわかる。 カは乾燥の厳しい北アフリカ地域に集中しているため、ラクダであるとわかる。 また、総頭数からクをウシであると判断することも可能である。
	問4	アフリカはモノカルチャー経済の国が多いため、主な生産物を覚えていれば解答は容易である。まず、産油国である②はアルジェリア、茶の生産が見られる③はケニア、銅の産出が見られる④はザンビアとわかる。残った①は消去法でモロッコと判断する。
	問5	サについては、スワヒリ語がケニアをはじめとした東アフリカ諸国で使用されている言語であるということから、Rであると判断する。 シについては、二つの異なる気候帯の境界線が乾燥地域と熱帯地域の境界であるサヘル地域であるとわかればトンプクトゥなどが該当するQであるとわかる。
	問6	スの文章単独で判断するのは困難であるので、サとシを判別し消去法で解答したい。 地理Aの問題によく見られる地域文化をテーマにした問題ではあるが、音楽の知識は一切必要なく、文章中のキーワードから判断ができる問題。 タについては、人種差別撤廃運動がアパルトヘイトに対する抵抗運動であると判断し、南アフリカ共和国と考える。チについては植民統治を受けなかったこと、古くから信仰されてきたキリスト教(コプト派)から、エチオピアであると考えられる。ツについてはイギリス統治で周辺がフランス植民地であったことからガーナであるとわかる。
第5問	問1	人口総数と増加率から判定可能な基本的問題。 増加率が最も高いAをアフリカであると判断。次に、注釈でアメリカとカナダのみと書かれている北米はCであると判断できる。Bは近年の増加率が低いことからヨーロッパであるとわかる。
	問2	5歳未満児死亡率が低い①と④はドイツ・韓国のいずれかであると絞り込み、穀物自給率が低い④を韓国であると判断する。
	問3	文章中のキーワードで解答できる基本的問題。 Pは90年代の国家体制変革(91年のソ連解体)からロシアであるとわかる。Qは干ばつと飢餓からアフリカのスーダンであるとわかる。Rは軍事政権からミャンマーであるとわかる。
	問4	今年の問題の中で最も難しかった問題の1つで、教科書レベルだけでは厳しい問題。 供与額最大の地域が近隣である東・東南アジアとなっている②が日本であると判断できる。また、GNIに対するODA総額の比率が低いにもかかわらずODA総額が大きいことからGNIの大きい日本であるということが判断できる。 次に、かつてアフリカに多く植民地を持っていたフランスは、現在もアフリカとのつながりが深く、GNIに対するODA総額の比率とODA総額との関係から①がフランスであると考えられる。 ③についてはGNIに対するODA総額の比率が高いことから、北欧など人道支援外交に積極的な北西ヨーロッパ諸国に含まれるオランダであると判断する。 したがって、残る④がイタリアであるということになる。
	問5	文章中のキーワードで解答可能な基本的問題。 カについては、国境を越えてきた大気汚染物質がもたらす酸性雨、水質の酸性化による生物の死滅からEであるとわかる。キについては、商業伐採や農園造成による森林の減少からG(カリマンタン島)であるとわかる。クについては、世界最大規模の水力発電ダム(三峡ダム)から、Fであるとわかる。

第6問	問1 問2 問3 問4  問5  問6	<p>問題文中にこの地形図の縮尺が2万5千分の1と記載されている。上惣と永田間の地図上の距離を目分量で測り、4cm程度であることがわかるので、これに2万5千をかけると100,000cm=1kmとなるため、②が正答であることがわかる。</p> <p>新旧の地図を照らし合わせ、寺院の位置にほとんど変化がないことから判断できる。</p> <p>空中写真では通勤流動の読み取りは不可能である。</p> <p><b>ア</b>については、江戸時代から続く町並みは敷地の間口が小さく、面積も小さいため、<b>G</b>であるとわかる。</p> <p><b>イ</b>についてはビルの高さや金融業が多く立地することから<b>H</b>であるとわかる。</p> <p><b>ウ</b>については、駐車スペースが大きく、飲食業・小売業が並ぶことから郊外のバイパス沿いの<b>F</b>であるとわかる。</p> <p>センター試験らしい良問。低地で収穫量の多い<b>J</b>と<b>K</b>は水稻・大麦のいずれかであると判断し、次に総収穫量がより多い<b>J</b>を水稻、少ない<b>K</b>を大麦と判断する。</p> <p>山間地域に収穫量が集中する<b>L</b>がみかんであると判断する。</p> <p>問題文で対象となっている国が明らかにされており、図中にそれぞれの国の文字が示されているので容易に解答ができる。<b>カ</b>の文章では2000年代半ば以降、登録者数が減少したと書かれているので、グラフの<b>R</b>は<b>カ</b>のフィリピンであるとわかる。また、<b>ク</b>の文中に書かれているように在日韓国・朝鮮籍所有者は日本国籍の取得により減少していることから、韓国・朝鮮籍はグラフ<b>Q</b>であると判断できる。</p>
-----	--	--